

第1号

令和7年4月30日

庄和すずらん幼稚園

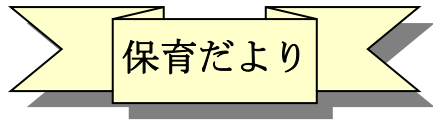
新しく入園された皆さま、そして、進級された皆さま、おめでとうございます。この“保育だより”は、すずらん幼稚園の園運営や教育理念、教育内容、教育方法、そして具体的な実践を、皆さまに知っていただく一助として、思いつくままに発表させていただく“保育随想”として、園長が毎月一回を目安に配布させていただくものです。

保育随想

★心が晴れる新習慣を！

入園式、始業式、懇談会、個人面談、園舎内外の園内巡りなどの活動を経て幼稚園生活が始まりました。大人も子ども達も初めての事を一つ一つ体験して、身の置き所や対応を見付けております。声を掛けられて、ぱっと気持ちが変わる一日一日は、新しい幼稚園生活に慣れる一日一日とも言える毎日です。出来るだけ一人ひとりに声を掛けて、少し先にはアイコンタクトで気持ちが通じ合う生活を目指しております。言葉は、その子に伝わる言葉で丁寧に基本ですが、時としてお互いの気持ちが通じ合うには十分ではない事を感じます。このことと言えば、7秒間の見つめ合いが出来る！これは思いの外長く、意図してしなければ出来ない事です。普段の生活の中でも、見ている様で見逃してしまっていたり、見ていないようでも認識していたりすることが常であります。はっきりとした意思で伝え合わないと、この時期に限らず乗り越えられないのではないのでしょうか。我々日本人には特に、忖度と言う良い、そして曖昧な対応も人間関係も保たれていますが、時として、ここまで言えば分かって！とやきもきや思い違いが生ずるものです。

こんな事をあれこれと思いながら毎日、取り分け4月から始まる新しい環境は、最初の一ヶ月は、見るもの出会う事に一生懸命であり、時には声を張り上げて頑張ります。苦勞という事ではないのですが、一日一日、喜びも見いだせて過ごす生活を送ります。私達の喜びの根幹には、自分と関われることでの成長や変化、そして喜びを得られるところにあります。よく5月病などと言われる現象も耳にします。頑張りすぎて声が出なくなったり、5月の長い連休を過ぎてから倦怠感から抜け出せないで居ること等々、一年をやり通すと言うことは平坦ではありません。これらを称して適応障害などと位置づけられて専門家に相談をするに至る場合もありますが、頑張りすぎて自分を超えない事が肝要です。生きる上で自分を保つと言うことは、丁度マラソンの走りのペース作りにも似ております。走りは42キロをイーブンペースで走り抜くことを目標にしますが、その時その時を味わう気持ちで、前に進むことかと思うのです。新しい環境は、誰でも初めてに近い事ですが、気負わずに此処まで対応の経験をしてきた事に立ち返り、やれることから始めて見る事で大概のことは、案外動き出すものです。やってみようと言う思いは、生きることの最初の一步です。今までの失敗の数々は、劣等感にもつながりましたが、やってみよう！の気持ちで動き出した先には、きっときっと心が晴れる世界があるかと思えます。出発の時と受けとめて、この春を迎えた季節に、自分への挑戦を致しましょう。



保育随想

★わくわく生きる！

新年度が始まって2ヶ月が過ぎました。クラスの仲間も変わり、慣れているはずの生活ですが、それぞれに道を見だし新たなことに向かって歩む毎日！と言って良いでしょうね。この時期の成長は、成人の7倍の早さで物事を獲得し吸収して居ると聞いております。

子どもだって大変なんだね～！もしかしたら大人以上に大変なのかも知れないよ！などと我が身に置き換えて考えるものです。それにしても楽しそうですね！良く笑いますよね！一生懸命ですよね！あの時代の本能かしら？と思える程の心情は、どこから生まれるのでしょうか。それで、あの時代の困難と思われる事ごと乗り越えて元気に生きています。大人だって子どもの時代を生きてきたのだから、同じように乗り越えて生きていますよ～！と言う声が聞こえてくるようですが、時として物事を経験して来ると、心配を見つけて生きる癖が身についてしまうのか、賢くなりすぎてしまうのか、あの子ども達のような心境までは行けないでおります。

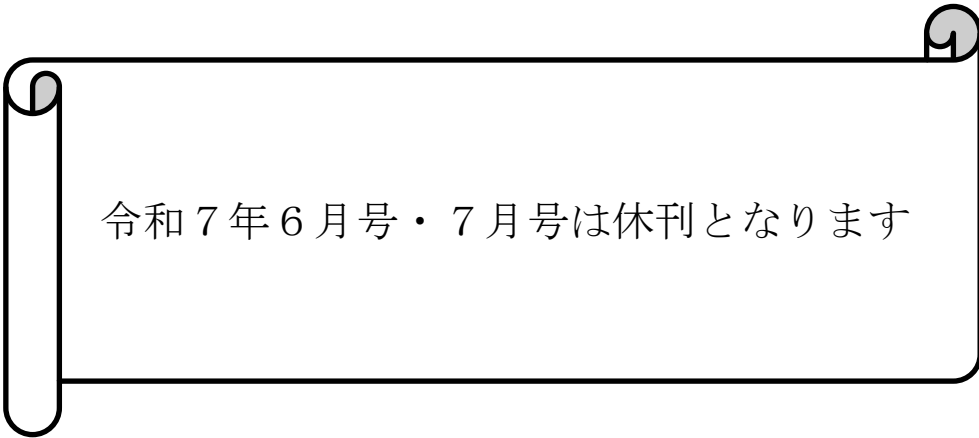
理屈ではなく、毎日をわくわく過ごせたら、それで充分ではないだろうか。それには目的を持って努力するのが順当で、良い成績を残す、良い成果を生み出す、勿論、目指す資格に合格する、目指す職業に就く等々、達成したときのわくわく感を思い描き努力する生活は、容易に想像しやすいものです。ですから、わくわくの本領は、少々の厳しい状況にあっても、落ち込まずに、前向きに居られるところにあるのです。

わくわくの語源は、お湯が沸くとか温泉が沸くと言った説が有力とか。水であれ、お湯であれ、石油であれ地中からわき出る不思議さには、まさにわくわく！他にもいろいろな説があって、結果が分からないことにも、わくわくします。

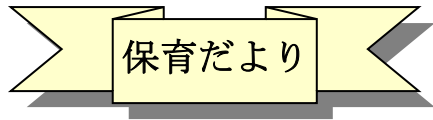
今日の青空は、わくわくでした。涼しい風は一層のわくわく感を味合わせてもらいました。思わぬ事故に遭遇しても、重荷を背負っていても自分の人生と受けとめて、生かされて居る感謝に立ち戻って、けなげに、わくわく出来る自分をつくっていかう。そうすると自分が軽くなるのです。

あの空に浮かぶ小さな白い雲だって、風に押されて流されたり、消えてしまったり、そして又違う形で、ぽっかりと表れて自由に形も変えて青い空に浮かんでいるのです。

苦しいと思える時こそ、楽じゃない人生を楽しむ精神は、命に関わる事は最優先ですが、そんな中でも、楽に生きて行く為には、余計な心配をしないで生きることが大事なようです。人によると、心配事の8割から9割は、実際には起きないと言います。8割から9割の心配は自分自身で作っているとも言います。もし何か起きてきたら、その時はその時、そして、その時もその時！心配しても心配しきれないことは、いくらでも出てくるものです。これからの歩みに、わくわく生きる自分作りに心がけて見ませんか。



令和7年6月号・7月号は休刊となります



第3号
令和7年9月30日
庄和すずらん幼稚園

保育随想

★恩送り

2か月休刊させていただいたこの保育だよりですが、今月号より前園長の森田博先生から引き継ぎ、発行して参ります。

長い長い残暑を経て、ようやく秋めいてきました。ここ数年は、ちょっとずつの季節の変化というよりは、極端に季節が移り替わり、体が追い付いていくのに必死な気がしませんか？とは言え、秋の虫の声や、秋の花などを見聞きすると、改めて、四季を感じられるこの日本という国に生まれたことに感謝の思いが湧いてきます。

秋といえば「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」・・・といろいろありますが、皆さんは何を思い浮かべますか？

私は、読書の秋です。小説の世界観に没入しては、妄想を膨らませることが、幼い頃から好きでしたので、秋だけに限ることではないのですが・・・

先日読んだ本の中で出会った素敵な言葉が「恩送り」というものでした。「恩返し」ではなく？と思ったのですが、読み進めていくと「なるほど！」と腑に落ちたのです。誰かから恩を受けたら、その人に恩を返すのが恩返し。でも、その人がすでに亡き人であった場合や遠く離れて生活しているときなどは、恩返しができなかったなあと悔やむ場面があります。先日亡くなられた森田博園長先生からたくさんの恩を受けながら、恩返しができていなかった私にとっては、出会うべくして出会った言葉なのかもしれません。その小説によると、誰かから受けた優しさなどを、必ずしもその人に直接返すというのではなく、別の人に伝えていく、手渡していくということで、優しさや善意の連鎖を生むというものだということです。

皆さんは今まさに子育ての真っ最中。この子にいつか恩返しをしてもらおうと思いつつ子育てをなさっているわけではないでしょう。お子さんに施す愛情は見返りを期待するものではなく、その愛情を受けたお子さんが、周囲のお友達や大人たちにたくさんの笑顔や純真な思いを伝えていくというその行為が、周囲の人々を幸せにしていく気がします。お子さんたちがやがて大人になって、自分の子どもを授かった時、またそこで連鎖が生まれますね。「恩送り」はまさに身近なものなのと気づかされます。

先日のことですが、14時半ごろに外の掃除をしていたとき、ある年中の男の子が、ひとりですっと近づいてきて、ちょっと恥ずかしそうに、小さい声ですが、でもはっきりと「先生、お掃除してくれてありがとう。」と言ってくれたのです。心いっぱい温かさが広がり、誰に言われても「ありがとう」の言葉は気持ちがよくて多幸感のある言葉だなと思いました。「恩送り」というと、何か難しい言葉にも聞こえますが、「ありがとう」「うれしいよ」「また、まってるね」という受け入れ言葉を意識することで、自然と「恩送り」になっているのかもしれませんがね。

一日一回は言ってみましょうか！「ありがとう」って。